



あなたの教室に天文学者を届けます！

2010年度にスタートしたふれあい天文学では、例年40名を超える職員が講師となって、太陽や月のお話、星の誕生のしくみ、ブラックホールの不思議、太陽系を旅する宇宙旅行といった星や宇宙の話題を、全国の小中学校に届けてきました。近年は、聾（ろう）学校、特別支援学校、夜間中学でも授業を行ったほか、世界各地の日本人学校や補習授業校でもオンラインでの授業を展開しています。今度はみなさんの学校で天文学者の授業を行ってみませんか。

ふれあい天文学：<https://prc.nao.ac.jp/delivery/>

「ふれあい天文学」ってどんな授業なの？



2021年度は、国内75校、海外43校で実施されました。

授業のタイトルは

- 宇宙のなぞにいとむ
- ブラックホールってなに？
- 宇宙人はいますか
- 宇宙の話—より大事な科学的なものの考え方の話—などいろいろ。

若手の研究者から国立天文台の重鎮、そしてテレビで見かける天文学者まで参加しています。

子どもたち・先生・天文学者の感想

子どもたち、学校の先生、天文学者から寄せられた感想をご紹介します。

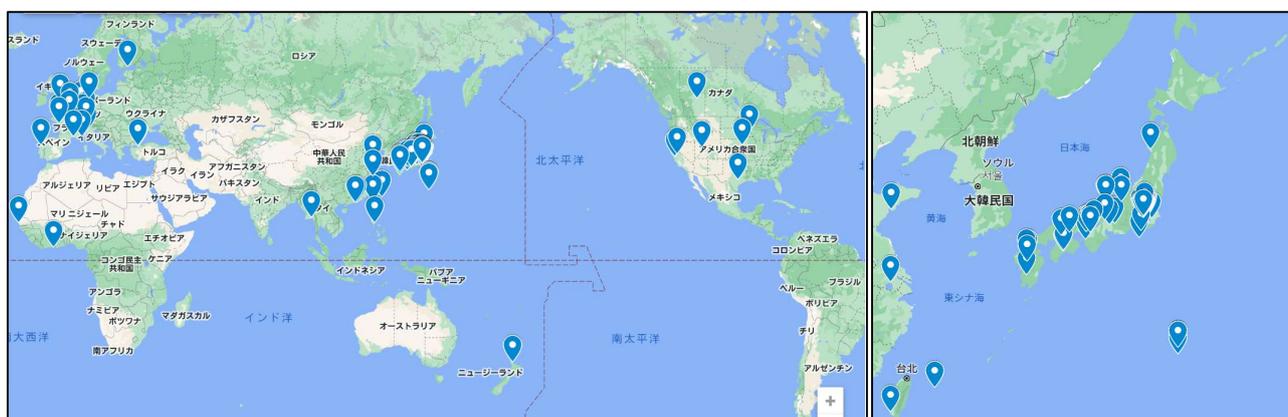
- 太陽はとても遠いところにあることが分かった。でも宇宙から見るととても近いところにあることが分かった。(小学生)
- 人が実際にその小惑星に行かなくてもその色などを赤外線カメラなどを使ってわかることがすごいと思いました。(小学生)
- マニラの星の見え方、北極星がそんなに下に見えるということが驚きました。(小学生)
- 今日の講演会は、今までの講演会の中で一番面白かったように感じました。学問の面白さというのを感じることができたし、私が今している勉強の面白さも見出せた。(中学生)
- 研究者の方から直接お話を聞くことが、こんなにも効果的というのをあらためて実感しました。理科も「感動」が大事は間違いなかったです。(教職員)
- 宇宙の壮大さ・多様さを※Mitakaや写真を使って紹介しました。子どもたちが少しでも夢を持つことができたなら本望です。(天文学者)
- 「生徒さんが進路を考える上で参考になる話をしてほしい」というリクエストを事前に先生方からいただいたので、経歴や生徒さんへのメッセージを含めました。(天文学者)

※Mitaka…4次元デジタル宇宙ビューワー（宇宙の果てまで行けるソフトウェア）

授業風景



実施校（2021年度）



実施概要

- ◆対象：国内外の小学校（4年生以上）、中学校
- ◆授業時間：45～100分（1～2コマ）程度
- ◆内容：天文学に関わる授業と質疑（詳しい授業内容は、学校と講師と相談の上決定）
- ◆実施期間：毎年10月から翌年2月の間（学校と講師と相談の上決定）
- ◆実施方法：講師を派遣する訪問授業、オンライン授業（学校と講師と相談の上決定）
- ◆応募締切：5月末日
- ◆その他：授業内容・実施日など詳しくは講師と相談の上決定していきます。
この事業は「天文学振興募金」の支援を受けており、実施校の負担はありません。